



# ¡Hola! desde Nicaragua

☆青年海外協力隊 ニカラグア通信 No52☆ 2013年2月28日 発行者 夏目佳代子

¡Hola! あれよあれよという間に2月も過ぎていきました。雨は相変わらずよく降ります。この2ヶ月で雨が降らなかったのはたったの数日です! 「住めば都」とは本当にそうだなと思うのは、毎日の断水や突然起こる停電、舗装されていない道、町を歩くたくさんの犬など、最初は大変だ~と思ったことも今ではすっかり慣れて日常になったのですが、この降り続く雨だけは最後まで困りました。

## ☆アートマイル完成!

アートマイルの壁画作りもいよいよ最終段階。福寿小の子たちが「がんばってね。」という応援メッセージビデオを送ってくれました。えんぴつでの下書きが終わり、いよいよ色塗りです。その前に壁画の裏に一人ずつサイン、日本語で名前を書く! という子もいました。そして、それぞれ担当を決めて色塗りをしました。画材は壁画と一緒に日本から送られてきた「テントアート」というものを使い



ます。みんな顔が絵にくっつきそうなくらい一生懸命塗っていました。同時におしゃべりも音楽も止まりませんが・・・(携帯電話にたくさん曲を入れています。)最初は背景、次は手前、そして影やハイライトを入れて立体感を出して・・・完成が見えてくるとうれしさも高まってきます。4日目に



最後の仕上げをしてとうとう完成! 真ん中には桜とニカラグアの国花のサクアンフォチェが咲いた木、国鳥のグアドウラバランコが止まっています。上部のテーマは「自分の町で将来まで残したいもの」、左から青少年の家、カテドラル、ヌエバギネア市の木と言われている大きなセイバ、そして滝。「文化」の部分は、独立記念日などに行なわれるバンド、フォルクローレ(伝統的なダンス)、そしてグエグエンセ(伝統的な風刺劇)で使われる仮面。福寿小の鼓笛隊と共演しているようです。そして下部のテーマは「絆」子どもたちが手をつな

いで、お互いの国の旗を持っています。そして特産物のとうもろこしとバナナの木。完成した壁画を子どもたちも気に入って、とっとうれしそうで達成感いっぱい顔でした。完成したお祝いに、日本の学校給食で人気メニューのカレーを作りました。以前作ったしょうゆ味の煮卵は残念ながら大不評だったのですが、カレーはみんなおいしく食べてくれました。

2日後、保護者や地元メディアを招いて披露式を行ないました。最初に両国の国歌を聞き、子どもたちがこれまでの交流について説明したり、感想を話したりした後、一人一人に修了書を渡しました。保護者の方たちも、壁画を見てとても喜んでいました。思い返せば9月のスタート前からいつも何かしら起こり、選挙の後には青少年の家が使えなかったり、政権が変わってカウンターパートのアウラが退職することになったりと、最後までやりきれぬのだろうかということが常に頭から離れませんでした。でも、自分の家を活動場所として使わせてくれたレイナ、



退職しても披露式と一緒に企画してくれたアウラ、と協力してくれる人たちがいて無事に披露式の日を迎えられました。長期間に渡るプロジェクトである上、いろいろなことが起こって大変だった分、私自身の達成感もまた大きかったです。子どもたちが当初の半分くらいに減ってしまったのが残念ですが、13人は最後までやり遂げました。彼らの感想には、「2つの国が一緒になって壁画を作れてよかった。」「日本のことを知ってより近く感じられるようになった。」「日本に友だちができてよかった。」という言葉がありました。日本とニカラグアは遠く離れていますが、壁画の絵のようにお互いの国や人はつながっているということを感じてもらえてよかったなと思います。完成した壁画を見てアウラと話をしている時に、彼女がこんなことを言いました。「学校では絵を描いたりものを作ったりという授業はほとんどないのよ。」彼女が子どもの時も、絵などを学ぶ場は全然なかったそうです。今回、子どもたちに絵の描き方、色の作り方や塗り方を教えたのですが、それは特別に習ったのではなく学校で教えてもらったことです。これまで行なってきた活動の中でも、子どもの頃の家や学校での遊びや



☆ヌエバギネアのテレビ局です。

学び、体験からヒントを得ることがたくさんありました。インターネットや携帯電話の普及率は驚くほどで、子どもたちも自分の携帯電話を持ち、フェイスブックを使いこなしていて、日本の子どもたちと変わらないようにも見えますが、教育や子どもたちの可能性を伸ばす機会はまだまだ限られているのが現状です。今回のアートマイルプロジェクトの体験が、何かしら彼らの中に残っていくといいなと願っています。

後日、プロジェクトのことが全国テレビで放送されました。地元のテレビ局にも招待され、壁画とこれまでの交流について紹介しました。その中で、私の任期が後少しという話になったとき、アウラが「カヨコが蒔いてくれた種を、私たちが花を咲かせていく。」ということをお話しました。自分が必要とされているのか、行なってきた活動が本当に彼らのためになっているのか、思い悩む時も多々ありましたが、彼女の言葉を聞いて本当にうれしかったです。壁画は福寿小に送り返し、もうすぐ着く予定です。その後はアートマイル本部が壁画を保管し、国内・海外で展示して下さいます。いつかみなさんにも実物を見てもらいたいです。

## ☆ニカラグアのごはん その16 トルティーヤ

ニカラグアでは「私たちはとうもろこしの子ども」という言葉をよく聞きますが（それがタイトルの歌もあります！）、食べ物もお菓子も飲み物も、とうもろこしが使われているものが本当にたくさんあります。（通信 No10 参照）人々の日々の食事に欠かせないのがトルティーヤ。小麦粉で作るものもありますが、ニカラグアのはとうもろこし 100%。



乾燥とうもろこしを石灰と一緒に柔らかくなるまでゆで、きれいに洗って薄皮をとった後、挽いて生地にします。町にはとうもろこし



☆とうもろこし乾燥中（左）と大鍋でゆで中（右） やカカオを挽いてくれるお店があります。

日本の精米所みたいです。田舎では、メタテという石でできた台と棒ですりつぶしたり、手で挽いたりもします。トルティーヤをつくるのは簡単なようではなかなかコツがいります。生地を丸め、丸く切ったビニールの上にのせ、右手でリズムよくたたきながら左手でトルティーヤを回して伸ばしていきます。それをコマルという素焼きの皿か鉄板の上で焼きます。たたき方が上手だと、焼き上がる時にふわ〜と膨らむのです。私はまだまだ修行がいるな〜。町のあちこちにトルティーヤ屋があり、近づくとぺったんぺったんとトルティーヤをたたき音が聞こえます。お店の人は手早く何枚も焼いていきます。道では、ゆでたとうもろこしをバケツに入れて挽いてもらいに行ったり、お皿を持って買いに行ったりする子どもたちに出会います。

